

システム名	MSP
ソフト略名	TF-SETRDB
適用V/L	V32L20
製品コード	A931681A-3220-1

ソ フ ト ウ ェ ア 説 明 書

OSIV/MSP SIMPLIA/TF-SETRDB V32

ま え が き

このソフトウェア説明書は、

OSIV/MSP SIMPLIA/TF-SETRDB V32 V32L20

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書をご一読ください。

なお、本ソフトウェアは、OSIV/F4 MSP(E20)、OSIV/MSPスケーラブルSCMPシステム環境においても稼働します。したがって、それぞれのインストレーションにつきましても、本書をご利用ください。

本ソフトウェアのインストレーションを実施するにあたり、その2週間前までに当社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお問い合わせのうえ、インストレーションを実施頂くようお願い致します。

また、ご不明な点は、当社の技術員にお問い合わせ下さい。

参照⇒ 本書中の参照箇所を示しています。

参照【】 “3.適用マニュアル”に記載されているマニュアルの参照箇所を示しています。

例： 参照【1】1.2・・・ 本書“3.適用マニュアル”の項番1に記載されているマニュアルより、1.2を参照

2000年10月

富士通株式会社

目 次

1 . 機 能 概 要	5
2 . 構成プログラム	6
3 . 適用マニュアル	6
4 . 新機能	7
5 . 移行上の注意	9
6 . 制限事項	10
7 . 使用上の注意事項	12
8 . ソフトウェア組合せ条件	14
9 . 提供媒体形式と内容	16
10 . D A S D所要量	16
11 . インストレーションの手引	17
12 . プログラム修正事項	29
付録1 . メタデータベースのリカバリレベルとA P G	30
付録2 . 使用するP E Dについて	30
付録3 . コマンドプロシジャの非互換について	31
付録4 . プロフィール通知のコマンドプロシジャについて	34

1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能をそなえている。

OS IV / MSP SIMPLIA / TF-SETRDB (SIMple development and maintenance support Program Libraries for Application system/Testing Facility of test data SETup program for RDB) (以降、SETRDBと呼ぶ)は、プログラム開発におけるRDB IIあるいはSymf oWARE / RDB (以降総称してRDBと呼ぶ)のデータの作成・検証作業の効率化を支援することを目的とし、RDBの更新、検証を行うアプリケーションプログラムである。TSS配下で動作し、メニューによる画面会話形式により以下の機能をサポートしている。

1.1 表示機能及び結合表示機能

指定した実表またはビュー表のデータ内容を画面に表示する。また、2つの表の内容を結合し、1つの表として表示することができる。それらは行抽出・列選択機能により、限定された行や列だけを画面に表示することができる。また、指定されたCOBOL登録集(以降コピー句と呼ぶ)のフォーマットで画面に表示することができる。

1.2 更新機能

指定した実表またはビュー表のデータ内容を画面に表示し、これに対してデータの更新、追加、削除を行う。それらは行抽出・列選択機能により、限定された行や列だけを画面に表示して更新することができる。また、指定されたコピー句のフォーマットで画面に表示して更新することができる。

1.3 SQL文実行機能

実行画面に直接入力することにより、SQL文の内容を動的に実行する。また、実行画面に入力したSQL文は保存、再利用することができる。

1.4 印刷機能

画面からの指示でバッチジョブを起動し、指定した実表またはビュー表の内容を帳票に出力する。当機能も行抽出・列選択機能により、限定された行や列だけを帳票に出力することができる。

なお、当機能ではRDBの定義情報(メタデータベース情報、スキーマ情報、表定義情報)も帳票に出力することができる。

1.5 表定義機能

画面からの指示でバッチジョブを起動し、表を定義することができる。また、表の定義情報(実行JCL)は保存することができる。

1.6 UNLOAD機能

画面からの指示でバッチジョブを起動し、DSOタイプおよび非DSOタイプの表のデータをファイルに出力することができる。

1.7 行抽出・列選択機能

画面や帳票にRDBの内容を出力する際に、抽出条件で行の検索を行ったり特定の列名を選択することができ、抽出条件および列名の選択情報はテストケースとしてアイテムライブラリに保存することができる。また、保存したテストケースを削除することも可能であるため、不要になったテストケースを削除することでアイテムライブラリを有効に使用することができる。

ただし、当機能は画面からテストケース名が指定された場合のみ使用可能である。

1.8 画面情報保存機能

コマンドプロシジャの再起動を行っても前回に使用した情報が画面に表示される機能である。なお、画面情報はユーザ識別子単位に保存されるため、表示される内容はユーザ識別子ごとに異なる。また、画面情報を保存するためのファイルは前述のテストケースを保存するアイテムライブラリが共用されている。

1.9 テストケース名一覧表出力機能

提供のバッチジョブJCLを起動により、テストケース名の一覧表を帳票に出力する。

1.10 プロフィール通知機能

提供のプロフィール通知コマンドプロシジャの起動、あるいはユーザーテンからのプロフィール通知プログラムの呼出しにより、SETRDBのバージョンレベル等のプロフィール情報を通知する機能である。

2. 構成プログラム

このソフトウェアは表2.1 に示すプログラムから構成されている。

表2.1 構成プログラム

項番	分類	プログラム名	バージョン・レベル	備考
1	起動時に指定するプログラム	JSM2X090	V32/L20	画面消去プログラム
		JSM2X080	V32/L20	端末種別取得プログラム
		JSM20000	V32/L20	メインプログラム
		JSM2PRF0	V32/L20	プロフィール取得プログラム
2	セットアップ用プログラム	JSM21000	V32/L20	アイテムライブラリのセットアップ用プログラム
3	バッチ処理プログラム	JSM22000	V32/L20	テストケース名一覧表印刷処理用プログラム

3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表3.1 に示すとおりである。

表3.1 適用マニュアル

項番	マニュアル名称	マニュアルコード	備考
1	OS IV SIMPLIA / TF - SETRDB 使用手引書	J1M0-9131-02	

4. 新機能

このソフトウェアでは、以前のバージョンレベルに対して次のような機能追加及び改良が行われている。

4.1 V30L20で行われた機能追加・改良点

4.1.1 表示機能及び結合表示機能

指定した実表またはビュー表のデータ内容を画面に表示する。また、2つの表の内容を結合し1つの表として表示することができる。それらは行抽出・列選択機能により、限定された行や列だけをソート指定で画面に表示することができる。

4.1.2 SQL文実行機能

実行画面に直接入力することにより、SQL文の内容を動的に実行する。また、実行画面に入力したSQL文は保存、再利用することができる。

4.1.3 表定義機能

画面からの指示でバッチジョブを起動し、表を定義することができる。また、表の定義情報（実行JCL）は保存することができる。

4.1.4 UNLOAD機能

画面からの指示でバッチジョブを起動し、DSOタイプおよび非DSOタイプの表のデータをファイルに出力することができる。

4.1.5 行抽出条件の機能強化

行抽出条件にLIKE, BETWEEN, IN述語を使用することができる。

4.1.6 共用モードでの操作性・応答性の向上

一意性制約を持つ表については、従来の行抽出条件で1行に絞り込む作業をすることなく、更新削除ができる。

複数行のメモリ保持により、表示行変更の応答性が向上している。

4.1.7 一覧選択機能

スキーマ名、表名、テストケース名、行抽出での列名について、一覧表より選択指定が可能である。

4.2 V31L10で行われた機能追加・改良点

4.2.1 マルチクラスタ環境における運用

OSIV/MSPスケラブルSCMPシステムにおけるマルチクラスタ運用が可能となる。

4.2.2 プロフィール通知機能

提供のプロフィール通知コマンドプロシジャの起動、あるいはユーザーチンからのプロフィール通知プログラムの呼出しにより、SETRDBのバージョンレベル等のプロフィール情報を通知する機能である。

4.3 V32L10で行われた機能追加・改良点

4.3.1 SymfoWARE/RDBへの対応

SymfoWARE/RDBでの動作保証を行う。

参照【1】1.5

4.3.2 バイナリデータへの対応

文字型属性列に存在していた、EBCDIC(カナ)コード表で文字として扱えないコードについて、代替文字表示およびHEX画面の追加により表示・更新可能とした。

4.4 V32L20で行われた機能追加・改良点

4.4.1 SymfoWARE/RDBの機密保護機能への対応

対象表に対する利用者の権限を事前にチェックし、使用中に権限未受領によるセッション中断が発生しないようにした。

4.4.2 コピー句によるデータ操作機能

SIMPLIA/TF-LINDAで作成されたアナライズファイルの利用と、レイアウト画面の追加により、コピー句のフォーマットに従ったデータの表示・更新を可能とした。

RDBのデータを1つの文字型属性列にまとめ、コピー句使用による運用がなされている場合にテストデータ作成の効率化が図れる。

4.4.3 更新画面カーソル遷移選択機能

更新画面のカーソル遷移(NOT NULL列の列情報欄を入力可能とするかしないか)を起動時に選択できるパラメタを追加した。

RDB IIまたは、SymfoWARE/RDB V10L20以降の表で以下の機能を使用しない表に対して、NOT NULL指定列の無駄なオペレーションをなくすることができる。

- DEFAULT句指定
- 日時型の日時値関数指定
- 文字列型の値指定USER指定

4.4.4 コマンド履歴表示機能

表示・更新画面において、正常に処理されたコマンドの履歴を表示できる。

5. 移行上の注意

以前のバージョン・レベルからこのソフトウェアに移るときには、以下の事項に留意しなければならない。

5.1 V30L10から移行の場合

- 提供JCLファイル、ロードモジュール、PSAM画面定義体ライブラリ、実行用コマンドプロシジャについてDLIBよりインストールする。

実行用コマンドプロシジャについて、現在のものを流用したい場合は付録3を参照の上、修正し直す必要がある。 参照⇒付録3.1

- アイテムライブラリは流用できない。本ソフトウェアで作成し直す必要がある。

5.2 V30L20から移行の場合

- 提供JCLファイル、ロードモジュール、PSAM画面定義体ライブラリ、実行用コマンドプロシジャについてDLIBよりインストールする。

実行用コマンドプロシジャについて、現在のものを流用したい場合は付録3を参照の上、修正し直す必要がある。 参照⇒付録3.2

- アイテムライブラリ、SQL文保存ライブラリは流用して使用できる。

5.3 V31L10から移行の場合

- 提供JCLファイル、ロードモジュール、PSAM画面定義体ライブラリ、実行用コマンドプロシジャについてDLIBよりインストールする。

実行用コマンドプロシジャについて、現在のものを流用したい場合は付録3を参照の上、修正し直す必要がある。 参照⇒付録3.3

- アイテムライブラリ、SQL文保存ライブラリは流用して使用できる。

5.4 V32L10から移行の場合

- 提供JCLファイル、ロードモジュール、PSAM画面定義体ライブラリ、実行用コマンドプロシジャについてDLIBよりインストールする。

実行用コマンドプロシジャについて、現在のものを流用したい場合は付録3を参照の上、修正し直す必要がある。 参照⇒付録3.4

- アイテムライブラリ、SQL文保存ライブラリは流用して使用できる。

5.5 V32L20使用で、RDBをRDBⅡからSymfoWARE/RDBへ移行の場合

- ロードモジュールのみSymfoWARE/RDB対応ロードモジュールをDLIBよりインストールし直す。 参照⇒11.2

6. 制限事項

このソフトウェアをインストールする際の主な制限事項を以下に示す。なお、下記以外の制限事項に関しては、適用マニュアルを参照されたい。また、本制限事項にはマニュアルに記載されていないものが含まれるため、注意されたい。

参照【1】1.5

表6.1 制限事項(続く)

制 限 事 項	備考(代行方法, その他)	解除予定
本ソフトウェアを認定ライブラリにインストールする又はインストールしたロードモジュールライブラリを認定ライブラリとして使用することはできない。	コマンドプロシジャのSET文、およびジョブ制御文のJOB LIBまたはSTEP LIB D文に、本ソフトウェアを格納しているロードモジュールライブラリを指定して実行する。	な し
本ソフトウェアで画面会話機能を使用する場合の端末は日本語ディスプレイでなければならない。	代行方法なし。	な し
エミュレータモードの端末を使用して本ソフトウェアの会話処理機能を実行する時、端末の日本語変換(FEP)の設定が以下のようにになっている場合は、各国語文字列型の列に対するデータが入力エラーとなることがある。 (設定内容) 全角の空白1文字を半角の空白2文字とする。	端末の日本語変換(FEP)の設定を以下のとおりに行う。 (設定内容) 全角の空白1文字を全角の空白1文字とする。	な し
本ソフトウェアは、使用する作業用データセット名の第一修飾子にユーザIDを使用しているため、同一ユーザIDで複数同時に使用すると割当てエラー等が発生する場合がある。	代行方法なし。	な し
本ソフトウェアでは分散データベースを扱うことはできない。	代行方法なし。	な し
DB/E III 互換機能を使用している表をSETRDBで更新した場合には、更新された表のデータ内容等は保証されない。 これはRDBのDB/E III 互換ファイルに対するSQL制限によるものである。	代行方法なし。	な し
本ソフトウェアで扱える表の最大列数は、結合表を含め32000列までである。	列数が32000列を超えないようなビュー表を定義することより、次の処理が可能となる。 - 1つの実表をもとに定義したビュー表: 更新・表示・印刷が可能。 - 複数の実表をもとに定義したビュー表: 表示・印刷が可能。	な し
本ソフトウェアで扱える表の最大レコード長は、結合表を含め32000バイトまでである。	表の最大レコード長が32000バイトを超えないようなビュー表を定義することより、次の処理が可能となる。 - 1つの実表をもとに定義したビュー表: 更新・表示・印刷が可能。 - 複数の実表をもとに定義したビュー表: 表示・印刷が可能。	な し
SymfoWARE/RDBを使用の場合、本ソフトウェア各機能において、利用者はSymfoWARE/RDB機密保護機能に関する諸権限を持つ必要がある。	SymfoWARE/RDB機密保護機能により諸権限を付与する。	な し
本ソフトウェアで使用するPEDのAPサブエントリに指定するTRANSACTION-POINT句には、SYSTEMを指定する。	代行方法なし。	な し

表 6 . 1 制限事項 (続き)

制 限 事 項	備考 (代行方法 , その他)	解除予定
<p>本ソフトウェアは、OS IV / MSP スケラブル SCMP システムに順応するため、アイテムライブラリの排他の有効範囲を従来のジョブ間からクラスタ間に拡張している。したがって、VOL 20 以前の本ソフトウェアと本ソフトウェアの同一システム上でのアイテムライブラリの共用はできない。</p>	<p>代行方法なし。</p>	<p>未 定</p>
<p>本ソフトウェアの表示または更新機能でコピー句によるデータ操作を行う場合、レイアウト画面の日本語項目に ADU JST で扱えないコード (不当コード) が存在すると、その項目表示後にデータは全角空白に置き換わる。また、不当コードの種類によっては動作が保証できない (画面の崩れ、異常終了など) 場合がある。</p>	<p>日本語項目のないコピー句を使用する。</p>	<p>未 定</p>

7. 使用上の注意事項

このソフトウェアをインストールする際の主な注意事項を以下に示す。なお、下記以外の注意事項に関しては、適用マニュアルを参照されたい。また、本注意事項にはマニュアルに記載されていないものが含まれるため、注意されたい。

参照【1】1.3 1.4

7.1 ロードモジュールのインストールに関する注意事項

本ソフトウェアのDLIBには、SymfoWARE/RDB対応ロードモジュールとRDBⅡ対応ロードモジュールの2つのロードモジュールライブラリが格納されている。使用のRDBに適合したロードモジュールのインストールが必要である。誤ったロードモジュールを使用の場合、本ソフトウェアの動作保証はできない。よって、インストール後、必ず確認いただきたい。 参照⇒11.3

7.2 リージョン不足に関する注意事項

SETRDBで使用するリージョンは最低でも基本域として2Mバイトが必要であるが、利用者が操作したい表に定義されている列の個数によってはそれ以上のリージョンが必要となる。列数の多い表を操作しようとした時、SETRDBで必要となるリージョンが確保できなかった場合は異常終了することがある。そのような場合に、利用者は以下の方法により該当表内のデータを操作することが可能である。

- － ログオン時のリージョンサイズを拡張する。
- － 該当する表の中から必要な項目のみを抽出したビュー表を定義して、このビュー表名を表名として指定する。

また、共用モードの場合にはデータをメモリに格納しているため、占有モードにくらべてリージョン不足を発生する可能性が高くなる。

なお、上記のリージョンとは別に、16Mバイト以上の拡張リージョンをRDBが使用する。

7.3 ジョブチューニングマクロを変更して使用する場合の注意事項

SETRDBはジョブチューニングマクロを使用して占有待ち制御を行わないようにしている。

ジョブチューニングマクロを使用して他の動作条件に変更する場合には、必ず占有待ち制御を行わない動的占有指定（ISWAIT=(ERROR,〔待ち時間〕,〔再試行回数〕)）を指定し、当ソフトウェアが提供しているロードモジュールの'JYPLJOB'と置き換える必要がある。

(例) SETRDBでは、表示機能において読み込み専用のPEDを指定するようにしているが、ジョブチューニングマクロでジョブ内共用バッファの属性を変更することにより、性能の向上を図ることができる。その際には次のような指定をおこなう(待ち時間を2秒、再試行回数を20回とした場合)。

```
JYPZJTUN DBBUFOP=RO, ISWAIT=(ERROR, 200, 20)
```

なお、ジョブチューニングマクロの使用方法については「OSⅣ/MSP RDBⅡ運用手引書」または、「OSⅣ/MSP SymfoWARE Server RDBオペレーションガイド」を参照のこと。

7.4 SETRDB使用のワークデータセットに関する注意事項

印刷，UNLOAD，表定義機能を使用する場合，SETRDBは以下に示すデータセット名を削除後新規に割り当てを行う。よって同一名のデータセットが存在する場合には，事前に既存のデータセット名を変更しておく必要がある。

- － 印刷，UNLOAD機能使用時 : 'ユーザID.WK.RDBII'
- － 表定義機能使用時 : 'ユーザID.WK.RDBII.識別子'
任意

8 . ソフトウェア組合せ条件

このソフトウェアを使用するときに必要な関連ソフトウェアは以下のとおりである .

表8.1 ソフトウェア組合せ条件(OSIV/MSP)

必要ソフトウェア	適用V / L	必須条件		備 考
		必須	選択	
AF II	10 / 10 ~			
SymfoWARE Server RDB	10 / 10 ~	(注1)		V10L10 DLIB 以降であること . 1000バイトを超えるBINARY型のデータ を利用の場合は , PTF レベルD98121以降 が必要 .
RDB II	10 / 10 ~	(注1)		V10L10 PTFレベルD93121以降で あること .
COBOL85	12 / 20 ~			V12L20 PTFレベルL91121以降で あること . SymfoWARE/RDB において , BLOB型 , BI NARY型 , 日時型 , 時間隔型のデータ を利用の場合は , PTF レベルL97031以降 が必要 .
AP/EF	10 / 40 ~	(注2)		AIM/CP V12L30 を使用する場合
	20 / 10 ~	(注2)		AIM V20L10を使用する場合
AP/DF	10 / 40 ~	(注3)		AIM/CP V12L30 を使用する場合
	20 / 10 ~	(注3)		AIM V20L10を使用する場合
PSAM	20 / 10 ~			V20L10 PTFレベルD91121以降で あること .
PFD	10 / 30 ~			画面からAP/DF の代わりにPFD を 呼び出す場合
SIMPLE/LINDA 又は SIMPLIA/TF-LINDA	20 / 34 ~			コピー句によるデータ操作を行う 場合

(注1) 使用するRDBに応じて , いずれか一方が必須である .

(注2)(注3) 使用するAIMのバージョンレベルに応じて , いずれか一方が必須である .

表8.2 ソフトウェア組合せ条件(OSIV/F4 MSP E20)

必要ソフトウェア	適用V / L	必須条件		備考
		必須	選択	
システム制御プログラム	E20 ~			
RDB II	10 / 10 ~			V10L10 PTFレベルD93121以降であること。
COBOL85	12 / 20 ~			V12L20 PTFレベルL91121以降であること。
AP/EF	10 / 40 ~			
AP/DF	10 / 40 ~			
PSAM	10 / 60 ~			V10L60 PTFレベルL90061以降であること。
PFD	10 / 10 ~			画面からAP/DF の代わりにPFD を呼び出す場合
SIMPLE/LINDA 又は SIMPLIA/TF-LINDA	20 / 34 ~			コピー句によるデータ操作を行う場合

9. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される磁気テープの内容は、表9.1 及び表9.2 に示すとおりである。

表9.1 提供媒体形式と内容

種 別	記憶密度	ラベル形式	ボリューム通し番号	ファイル数	サイ ズ	巻 数
D L B 0 1	6 2 5 0BPI	S L	S E T R D B	5	Q U A R T E R	1

表9.2 提供媒体内容

格納 順番	データセット名	内 容
1	RDB.CNTL	提供JCLファイル(インストール用ジョブ制御文, セットアップ用ジョブ制御文, ひな型JCL, テストケース一覧表出力実行用ジョブ制御文, プロフィール通知コマンドプロシジャ)
2	RDB.LOAD (注)	SymfoWARE/RDB対応ロードモジュール
3	RDB.LOAD (注)	RDB II 対応ロードモジュール
4	RDB.FMTLIB	PSAM画面定義体ライブラリ
5	RDB.CLIST	実行用コマンドプロシジャ

(注) お使いのRDBに合せて、いずれか一方を使用する。

10. DASD所要量

このソフトウェアのインストールを完了したときのDASD所要量の見積りは表10.1に示すとおりである。

単位は各々次のとおり

レコード長, ブロック長: バイト ディレクトリ: ブロック
DASD所要量: :トラック又はシリンドラ(単位省略部分はトラック)

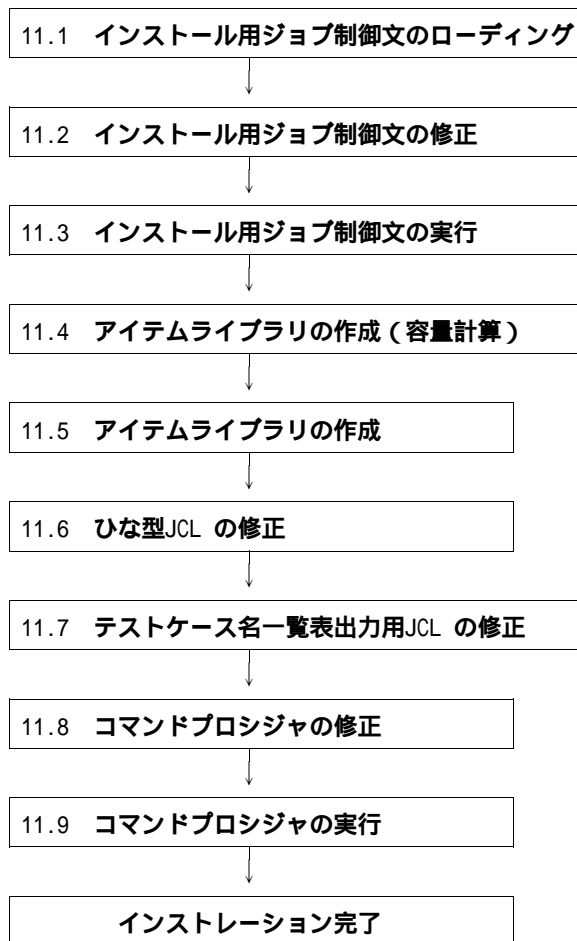
表10.1 DASD所要量

項 番	データセット名		データセット形式 レコード形式 レコード長 ブロック長	ディレ クトリ	算 出 式		備 考
	標準名	変更 可否			DASD所要量		
					F 6 4 2 1	F 6 4 2 5	
1	RDB. CNTL	可	区分編成 FB 80 3120	2	5	3	
2	RDB. LOAD	可	区分編成 U — 6144	27	111	74	SymfoWARE/RDB対応 ロードモジュール
				27	111	74	RDB II 対応 ロードモジュール
3	RDB. FMTLIB	可	区分編成 U — 6144	7	9	6	
4	RDB. CLIST	可	順編成 FB 80 3200	—	2	1	
5	RDB. ITEMLIB. VSAM	可	V S A M F 2000 2000	ユーザで指定			インストールの 手引参照 参照⇒11.4

11. インストレーションの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。

インストール手順は以下のフローどおり実施する。数字は、以降に示す章・節を表す。



11.1 インストール用ジョブ制御文のローディング

インストール用ジョブ制御文は、提供 JCL ファイル中の 1 メンバとして提供している。

この提供 JCL ファイルを DASD にローディングするジョブ制御文の例を図 11.1 に示す。下線部分は、修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

また、提供 JCL ファイルは SETRDB 実行時に使用するため、作業用ボリュームに作成したりインストール後に削除してはならない。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--  
//?JOBNAME JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=X_  
//STEP01 EXEC PGM=JSECOY  
//SYSUT1 DD DSN=RDB.CNTL,LABEL=(01,SL),  
// UNIT=MT,VOL=SER=SETRDB,DISP=(OLD,PASS)  
//SYSUT2 DD DSN=RDB.CNTL,SPACE=(TRK,(3,1,2),RLSE),  
// UNIT=SYSDA,VOL=SER=SF1VOL,DISP=(NEW,CATLG,DELETE)  
//SYSPRINT DD SYSOUT=*  
//SYSIN DD DUMMY  
//
```

図 11.1 インストール用ジョブ制御文ローディングのジョブ制御文（例）

11.2 インストール用ジョブ制御文の修正

11.1でローディングした提供JCLのうちインストール用ジョブ制御文をインストールするシステムに応じ修正する。メンバ名は、'INSTALL'である。

図11.2にインストール用ジョブ制御文を示す。下線部分は修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

(注) 使用のRDBに合わせて以下のとおりに修正する。

- Symf oWARE / RDB を使用の場合 : 02 とする。
- RDB II を使用の場合 : 03 とする。

ロードモジュールライブラリのインストール先は認定ライブラリであってはならない。 参照⇒6

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//?JOBNAME JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=X
//*****
//** SIMPLIA/TF-SETRDB          INSTALL JCL          **
//*****
//**** LOAD MODULE RESTORE *****
//** SYMFOWARE/RDB ヲシヨウノハ"アイ : ?? = 02 ヲシテイル          **
//** RDBII ヲシヨウノハ"アイ : ?? = 03 ヲシテイル          **
//*****
//STEP02 EXEC PGM=JSECOPY
//SYSUT1 DD DSN=RDB.LOAD,LABEL=(??,SL), _____(注)
//          UNIT=MT,VOL=SER=SETRDB,DISP=(OLD,PASS)
//SYSUT2 DD DSN=RDB.LOAD,SPACE=(TRK,(74,1,27),RLSE),
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=SF1VOL,DISP=(NEW,CATLG,DELETE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//**** FMTLIB RESTORE *****
//STEP03 EXEC PGM=JSECOPY
//SYSUT1 DD DSN=RDB.FMTLIB,LABEL=(04,SL),
//          UNIT=MT,VOL=SER=SETRDB,DISP=(OLD,PASS)
//SYSUT2 DD DSN=RDB.FMTLIB,SPACE=(TRK,(6,1,7),RLSE),
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=SF1VOL,DISP=(NEW,CATLG,DELETE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//**** CLIST RESTORE *****
//STEP04 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=RDB.CLIST,LABEL=(05,SL),
//          UNIT=MT,VOL=SER=SETRDB,DISP=(OLD,PASS)
//SYSUT2 DD DSN=RDB.CLIST,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),
//          DCB=(LRECL=80,BLKSIZE=3200,RECFM=FB,DSORG=PS),
//          UNIT=SYSDA,VOL=SER=SF1VOL,DISP=(NEW,CATLG,DELETE)
//SYSIN DD DUMMY
//
```

図11.2 インストール用ジョブ制御文

11.3 インストール用ジョブ制御文の実行

修正したインストール用ジョブ制御文を実行する。

インストール用ジョブ終了後、SETRDBロードモジュールライブラリに対して以下の確認を行う。

- Symf oWARE / RDBを使用の場合
インストールしたSETRDBロードモジュールライブラリ内に、メンバ'JSM2SYMF'が存在することを確認する。
- RDB IIを使用の場合
インストールしたSETRDBロードモジュールライブラリ内に、メンバ'JSM2RDB2'が存在することを確認する。

11.4 アイテムライブラリの作成（容量計算）

アイテムライブラリは、プロジェクト単位にVSAM（KSDS）で作成する。スペース量は次の計算式で求める。また、DASD機種により、下の係数を掛ける。図11.3にスペース量計算式、表11.1に装置タイプと係数を示す。

なお、指定するスペース量はデータ部およびインデックス部を合計したものであり、スペース量の単位はシリンダである。

$$\begin{aligned}
 & \text{(データ部およびインデックス部)} = \frac{\text{レコード件数}}{142} \times n(\text{CYL}) \\
 & \cdot \text{レコード件数算出式} \\
 & \left\{ \left[1 + \frac{\text{1表当たりの平均列数}}{272} \right] \times \text{テストケース数} \right\} + \text{SETRDBを使用するユーザーID数} + 1 \\
 & \hspace{20em} \text{(小数点以下切上げ)}
 \end{aligned}$$

図11.3 アイテムライブラリスペース量計算式

表11.1 装置タイプと係数

装置タイプ	係数 (n)
F 6 4 2 1	1.4
F 6 4 2 5	1.0

11.5 アイテムライブラリの作成

11.1でローディングした提供JCLのうちアイテムライブラリ作成用ジョブ制御文をシステムに
 じ修正する。メンバ名は '@ITEMDEF' である。

図11.4にアイテムライブラリ作成用ジョブ制御文を示す。下線部分が修正箇所である。

- | | |
|--|----------------------|
| ① JOB 文 | ② ユーザーカタログ名 |
| ③ アイテムライブラリ・クラスタ名 | ④ ボリューム通番 |
| ⑤ 算出スペース量 | |
| ⑥ UNIQUE指定 (アイテムライブラリをVSAMスペースに確保する場合は、この行を削除する) | |
| ⑦ アイテムライブラリ・データ部名 | ⑧ アイテムライブラリ・インデックス部名 |
| ⑨ SETRDBロードモジュールライブラリ名 | ⑩ COBOL85 ライブラリ名 |

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//?JOBNAME JOB CLASS=A,MSGCLASS=R -----①
//*****
//** SIMPLIA/TF-SETRDB ITEMLIB SETUP JCL **
//*****
//JOBCAT DD DSN=SF1UCAT,DISP=SHR -----②
//KQCAMS EXEC PGM=KQCAMS,REGION=512K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
  DEFINE CLUSTER
    (NAME(RDB.ITEMLIB.VSAM) -----③
     INDEXED
     VOLUMES(SF1VOL) -----④
     CYLINDERS(3) -----⑤
     RECORDSIZE(2000 2000)
     KEYS(74 0)
     IMBED
     UNIQUE -----⑥
     SHAREOPTIONS(4 4))
  DATA
    (NAME(RDB.ITEMLIB.DATA)) -----⑦
  INDEX
    (NAME(RDB.ITEMLIB.IDX)) -----⑧
/*
//SETUP EXEC PGM=JSM21000
//STEPLIB DD DSN=RDB.LOAD,DISP=SHR -----⑨
// DD DSN=SYS1.C85V12.COBLIB,DISP=SHR -----⑩
//JSM2ITEM DD DSN=RDB.ITEMLIB.VSAM,DISP=SHR -----③
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//
  
```

図11.4 アイテムライブラリ作成用ジョブ制御文

11.6 ひな型JCLの修正

11.1でローディングした提供JCLのうち印刷処理，表定義処理およびUNLOAD処理でのバッチ実行用のひな型JCLをシステムに応じ修正する．なお，AIMのバージョンによって，修正方法が異なるので注意されたい．

図11.5に印刷処理のひな型JCLを示す．メンバ名は'@PRINT'で，下線部分が修正箇所である．

- ① ユーザーカタログ名
- ② COBOL85 ライブラリ名
- ③ メタデータベーススペース名
- ④ AIMPED DD 文（印刷用PED 名，APG 名，DID（AIM V20 の場合のみ））システムに合わせて該当のDD文の方のコメントを外して使用する．

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
%J01
%J02
%J03
/*****
/** SIMPLIA/TF-SETRDB          PRINT JCL          **
/*****
//JYQDDUTY EXEC PGM=JYQDDUTY,REGION=3072K
//STEP CAT DD DSN=SF1UCAT,DISP=SHR _____①
//STEPLIB DD DSN=SYS1.C85V12.COBLIB,DISP=SHR _____②
//SYSDBDCT DD DSN=S1130.RDB.MD,DISP=SHR _____③
/* AIMPED DD SUBSYS=(AIM,PED001,APG001) _____④
/* AIMPED DD SUBSYS=(AIM,PED001,APG001,DID) _____④
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSULIST DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
%PRINT
/*
//

```

図11.5 印刷処理のひな型JCLの修正箇所

図11.6に表定義処理のひな型JCLを示す．メンバ名は'@CREATE'で，下線部分が修正箇所である．

- ① ユーザーカタログ名
- ② COBOL85 ライブラリ名
- ③ メタデータベーススペース名
- ④ AIMPED DD 文（表定義用PED 名，APG 名，DID（AIM V20 の場合のみ））システムに合わせて該当のDD文の方のコメントを外して使用する．

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
%J01
%J02
%J03
/*****
/** SIMPLIA/TF-SETRDB          CREATE JCL          **
/*****
//JYQDDUTY EXEC PGM=JYQDDUTY,REGION=3072K
//STEP CAT DD DSN=SF1UCAT,DISP=SHR _____①
//STEPLIB DD DSN=SYS1.C85V12.COBLIB,DISP=SHR _____②
//SYSDBDCT DD DSN=S1130.RDB.MD,DISP=SHR _____③
/* AIMPED DD SUBSYS=(AIM,PED001,APG001) _____④
/* AIMPED DD SUBSYS=(AIM,PED001,APG001,DID) _____④
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSULIST DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
%CREATE
/*
//

```

図11.6 表定義処理のひな型JCLの修正箇所

図11.7にUNLOAD処理のひな型JCLを示す。メンバ名は '@UNLOAD' で、下線部分が修正箇所である。

- ① ユーザーカタログ名
- ② COBOL85 ライブラリ名
- ③ メタデータベーススペース名
- ④ AIMPED DD 文 (UNLOAD用PED 名, APG 名, DID (AIM V20 の場合のみ)) システムに合わせて該当のDD文の方のコメントを外して使用する。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
%J01
%J02
%J03
//*****
//** SIMPLIA/TF-SETRDB          UNLOAD JCL          **
//*****
//JYQDDUTY EXEC PGM=JYQDDUTY,REGION=3072K
//STEP CAT DD DSN=SF1UCAT,DISP=SHR _____①
//STEPLIB DD DSN=SYS1.C85V12.COBLIB,DISP=SHR _____②
//SYSDBDCT DD DSN=S1130.RDB.MD,DISP=SHR _____③
//*AIMPED DD SUBSYS=(AIM,PED001,APG001) _____④
//*AIMPED DD SUBSYS=(AIM,PED001,APG001,DID) _____④
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSULIST DD SYSOUT=*
%DD
//SYSIN DD *
%UNLOAD
/*
//

```

図11.7 UNLOAD処理のひな型JCLの修正箇所

11.7 テストケース名一覧表出力用JCLの修正

11.1でローディングした提供JCLのうちテストケース名一覧表出力用JCLをシステムに応じ修正する。メンバ名は '@ITEMPRT' である。

図11.8にテストケース名一覧表出力用JCLを示す。下線部分が修正箇所である。

- ① JOB 文
- ② ユーザーカタログ名
- ③ SETRDBロードモジュールライブラリ名
- ④ COBOL85 ライブラリ名
- ⑤ アイテムライブラリ・クラスタ名
- ⑥ 紙送り制御コード (11インチ用紙, 8ライン印刷を指定する)

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//?JOBNAME JOB CLASS=A,MSGCLASS=R _____①
//*****
//** SIMPLIA/TF-SETRDB ITEM LIB PRINT JCL          **
//*****
//JOB CAT DD DSN=SF1UCAT,DISP=SHR _____②
//PRTITEM EXEC PGM=JSM22000
//STEPLIB DD DSN=RDB.LOAD,DISP=SHR _____③
// DD DSN=SYS1.C85V12.COBLIB,DISP=SHR _____④
//JSM2ITEM DD DSN=RDB.ITEM LIB.VSAM,DISP=SHR _____⑤
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//JSM2ITMP DD SYSOUT=*,FCB=STD3 _____⑥
//

```

図11.8 テストケース名一覧表出力用JCLの修正箇所

11.8 コマンドプロシジャの修正

11.3でローディングしたコマンドプロシジャをシステムに応じ修正する。

図11.9にコマンドプロシジャを示す。下線部は修正箇所である。なお、AIMのバージョンによって、修正方法が異なるので注意されたい。

また、SETRDBをV30L10、V30L20、V31L10、V32L10からV32L20へレベルアップした場合にも、起動用コマンドプロシジャに非互換があるため、V32L20用のコマンドプロシジャのひな型をもとに修正されたい。 参照⇒付録3

① パラメタ

- PRJ : プロジェクト名を指定する (提供時はユーザID)
- MODE: 動作モード
 - ・ 1 = 共用モード (提供時)
 - ・ 2 = 占有モード
- CNT : 共用モードを使用する場合のメモリにためるデータの最大件数
 - ・ 1 = 10件
 - ・ 2 = 100件 (提供時)
 - ・ 3 = 1000件
- SSP : 印刷用一時ファイル容量初期値 (TRK) (省略値: 1TRK)
- PSP : 印刷用一時ファイル容量増分値 (TRK) (省略値: 1TRK)
- VOL : 印刷用一時ファイルのボリューム通番
- CUR : 更新画面カーソル遷移選択
 - ・ 1 = 列情報欄に停まる (提供時)
 - ・ 2 = NOT NULL定義のある列に対して列情報欄は通過 (RDB II 使用時推奨)
- LAY : レイアウト画面表示 (コピー句によるデータ操作) の有無
 - ・ 1 = レイアウト画面表示なし (提供時)
 - ・ 2 = レイアウト画面表示あり

② 更新処理を行う時のPED名 (必ず “ ACCESS MODE IS UPDATE ” の指定のある更新用のPED名を指定すること)

③ 表示処理を行う時のPED名 (必ず “ ACCESS MODE IS READ-ONLY ” の指定のある読込専用のPED名を指定すること)

④ APG名

⑤ ディレクトリID (AIM V20のみ設定)

(注) 導入されているAIMのバージョンと一致するパラメタ行のコメントを外して、残りのコメント行をすべて削除すること。

⑥ SETRDBロードモジュールライブラリ名

⑦ 画面定義体ライブラリ名

⑧ アイテムライブラリ・クラスタ名

⑨ ひな型JCLライブラリ名

⑩ メタデータベーススペース名

⑪ SIMPLIA/TF-LINDAのアナライズファイル名を指定する。ただし、上記①のLAYパラメタが1 (レイアウト画面を表示しない) の場合、修正する必要はない。

⑫ COBOL85 ライブラリ名

⑬ CALL文パラメタ (導入されているAIMのバージョンと一致するパラメタ行のコメントを外して、残りのコメント行をすべて削除すること)

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
PROC 0 PRJ(&SYSUID) MODE(1) CNT(2) SSP(01) PSP(01) VOL(WORK) + _____①
      CUR(1) LAY(1) _____ +
/* V12
/*      UPD(UPD001) RPD(RD0001) APG(APG001) _____ AIM
/* V20      ②      ③      ④      V12 用 } (注)
/*      UPD(UPD001) RPD(RD0001) APG(APG001) DID(00) _____ AIM
      ②      ③      ④      ⑤      V20 用
CONTROL MAIN NOCONLIST NOMSG NOLIST
PROFILE WTPMSG MSGID
ERROR DO
  
```

図11.9 コマンドプロシジャの修正箇所 (続く)


```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----
RETURN
END
SET: SET &MAXCC=0
      SET &LDMLIB=RDB_LOAD _____⑥
      SET &FMTLIB=RDB.FMTLIB _____⑦
      SET &ITMLIB=RDB.ITEMLIB.VSAM _____⑧
      SET &JCLLIB=RDB.CNTL _____⑨
      SET &MDBLIB=RDB.MD _____⑩
      SET &ANALIB=RDB.ANALIZE _____⑪
/*
      SET &COBLIB=SYS1.C85V12.COBLIB _____⑫
      FREE F(SYSOUT JSM2MENU JSM2ITEM +
            JSM2HINA SYSDBDCT JSM2ANA)
/*
      SET PRJ=&PRJ
      CALL '&LDMLIB(JSM2X090)'
/*
WRITE _____
      ALLOC DA(*) F(SYSOUT) SHR REU
      LIB '&COBLIB'
      CALL '&LDMLIB(JSM2PRF0)' 'T2'
WRITE
WRITE RDB DISPLAY AND UPDATE SYSTEM
WRITE
WRITE PROJECT &PRJ
WRITE USER-ID &SYSUID
WRITE START &SYSTIME &SYSDATE
WRITE
      SET &MAXCC=0
      SET &LASTCC=0
      CALL '&LDMLIB(JSM2X080)'
      IF &MAXCC=0 THEN +
      DO
      WRITE
      WRITE
      WRITE JSM20010-S ALPHANUMERIC TERMINAL
      WRITE IS NOT SUPPORTED
      WRITE
      WRITE
      GOTO OWAR I
      END
      SET &MAXCC=0
      ALLOC DA('&FMTLIB') F(JSM2MENU) SHR REU
      IF &MAXCC =0 THEN +
      DO
      WRITE
      WRITE
      WRITE JSM20020-S フォーマットライブラリの
      WRITE 割当てに失敗しました
      WRITE
      WRITE
      GOTO OWAR I
      END
      ALLOC DA('&ITMLIB') F(JSM2ITEM) SHR REU
      IF &MAXCC =0 THEN +
      DO
      WRITE
      WRITE
      WRITE JSM20030-S アイテムライブラリの
      WRITE 割当てに失敗しました
      WRITE
      WRITE
      GOTO OWAR I
      END
      ALLOC DA('&JCLLIB') F(JSM2HINA) SHR REU
      IF &MAXCC =0 THEN +
      DO
      WRITE
      WRITE
      WRITE JSM20040-S ひな型JCLライブラリの
      WRITE 割当てに失敗しました
      WRITE
      WRITE
      GOTO OWAR I
      END

```

図11.9 コマンドプロシジャの修正箇所(続く)

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
ALLOC DA('&MDBLIB') F(SYSDBDCT) SHR REU
IF &MAXCC =0 THEN +
DO
WRITE
WRITE
WRITE JSM20050-S メタデータベースの
WRITE 割当てに失敗しました
WRITE
WRITE
GOTO OWARI
END
IF &LAY ^=2 THEN GOTO CALL
ALLOC DA('&ANALIB') F(JSM2ANA) SHR REU
IF &MAXCC =0 THEN +
DO
WRITE
WRITE
WRITE JSM20450-S アナライズファイルの
WRITE 割当てに失敗しました
WRITE
WRITE
GOTO OWARI
END
CALL: LIB ('&LDMLIB' +
        '&COBLIB')
CALL '&LDMLIB(JSM20000)' +
/* V12
/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD*&RPD*&APG*&CUR'
/* V20
/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD*&RPD*&APG*&CUR*&DID'
END
OWARI: FREE F(JSM2MENU +
            JSM2ITEM +
            JSM2HINA +
            JSM2ANA +
            SYSOUT +
            SYSDBDCT)
LIB
PROFILE NOWTPMSG NOMSGID
WRITE
WRITE SIMPLIA/TF-SETRDB END
WRITE
EXIT

```

図11.9 コマンドプロシジャの修正箇所(続き)

11.9 コマンドプロシジャの実行

11.8で修正したコマンドプロシジャを実行する。以下の操作を行い、正常に処理されればインストールは完了である。

起動方法： TSS 端末のREADY が表示されている状態より以下のコマンドを投入する。

```
EXEC 'RDB.CLIST'  
      ↳コマンドプロシジャ名
```

確認方法： 次頁の図11.10 操作手順を参考にしながら確認されたい。

- ① SETRDB起動後メニュー画面が表示されるかどうかを確認する。異常終了画面または先頭がJSM2で始まるメッセージが表示された場合は、適用マニュアルを参照して対処を行い、その後再度SETRDBを起動する。 参照【1】付録A
異常終了画面および先頭がJSM2で始まるメッセージが表示されずに異常終了する場合は、コマンドプロシジャの修正に誤りがあると思われる（特に割り当てるファイル名）ため、コマンドプロシジャのCONTROL 文のNOMSG およびNOLISTをそれぞれMSG ,LISTに変更して割当てが正しく行われているかどうかを確認する。
- ② メニュー画面が表示された後、データベース印刷機能（オプション'5'）を選択して、表情報設定画面を表示させて、アイテムライブラリが正しく作成されているかどうかを確認する。表情報設定画面が表示されれば、アイテムライブラリは正しく作成されている。メニュー画面でエラーメッセージが表示された場合または異常終了画面が表示された場合は、適用マニュアルを参照して対処を行う。 参照【1】付録A
- ③ データベース印刷機能を実行し、バッチ処理が正常に終了することにより、ひな型JCLの修正が正しく行われているかどうかを確認する。ただし、データベース印刷機能を実行する時は表情報設定画面で以下の項目を入力後ENTER キーを押下して印刷画面を表示させ、ジョブ文をシステムに応じて修正すると同時に、印刷区分に'2'（メタデータベース情報を印刷する）を入力しておくこと。バッチ処理がエラーになる場合は11.6の作業を確認する。
 - － スキーマ名 : 定義済のスキーマ名を入力する。
 - － 表名 : 定義済の表名を入力する。
 - － 既存テストケース名: '*'を入力する。（引用符は不要）
- ④ テストケース名一覧表出力用ジョブを実行し、バッチ処理が正常に終了することにより、テストケース名一覧表出力用JCLの修正が正しく行われているかどうかを確認する。バッチ処理がエラーになる場合は11.7の作業を確認する。

12. プログラム修正事項

前回提供のソフトウェアに対して以下のプログラム修正が行われている。

ただし、機能追加または強化に伴う修正内容を除く。

参照⇒4

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
1	<p>メタデータベース定義文のレベル数 ' 2 ' で作成されたメタデータベースのテーブルを更新対象とした場合、DEFAULT句定義のある列に対して、更新画面の列情報欄に ' D ' を入力してもエラー (J S M 2 4 0 1 0 - E DEFAULT句の無い列にDEFAULT指定はできません) となる。</p> <p>(対処)</p> <p>DEFAULT句定義のある列に対して、更新画面の列情報欄に入力された ' D ' を有効にするよう修正した。</p>	J S M 2 B 0 4 0
2	<p>表示または、更新画面で、 ' ** END OF DATA ** ' のみ表示されている場合にHEXコマンドをオペランド空白 (画面先頭列指定の意) のまま投入すると異常終了する。</p> <p>(対処)</p> <p>** END OF DATA ** の表示されている画面でオペランド空白のHEXコマンドが投入された場合、エラー (J S M 2 2 4 6 0 - E オペランドの値が不当です。再度入力してください) とし、異常終了しないよう修正した。</p>	J S M 2 C 0 1 0 J S M 2 S 0 1 0

付録1 . メタデータベースのリカバリレベルとA P G

SETRDBを起動する時に割り当てるA P Gは、メタデータベースを作成する時に制御文で記述したリカバリレベルと同じリカバリレベルを定義したものを使用しなければならない。これはメタデータベースに指定したリカバリレベルとSETRDB起動時に割り当てたA P Gの間に矛盾がある場合、異常終了するためである。

付録2 . 使用するP E Dについて

SETRDB更新機能を用いてデータ内容の更新ができるかどうか、および表示機能を用いて表を占有することなく表示できるかどうかはコマンドプロシジャ起動時に割り当てるP E Dの定義内容に関わっている。

SETRDBで更新機能を用いるためには、RDB II サブエントリに以下の定義を行ったP E D名を起動用コマンドプロシジャの更新用P E D名指定用のU P Dパラメタに指定する必要がある。

— ACCESS MODE IS UPDATE (更新モード)

SETRDBで表示機能を用いるためには、RDB II サブエントリに以下の定義を行ったP E D名を起動用コマンドプロシジャの表示用P E D名指定用のR P Dパラメタに指定する必要がある。万が一表示用のP E Dに更新用のP E Dを指定した場合には、表示中であっても表を占有してしまうため注意されたい。

— ACCESS MODE IS READ-ONLY (読み専用モード)

以下にデータベース更新機能を用いる場合に使用するP E Dの例を示す。なお、このP E Dを使用する場合、更新対象となる表はページ単位の動的占有となる。

```
PED NAME IS XXXXXXXX. ← (注)
AP NAME IS DUMMY;
LOG BUFFER SIZE IS SYSTEM;
BOF BUFFER IS SYSTEM SPACE 1000;
TRANSACTION-POINT IS SYSTEM.
RDB II SCHEMA NAME IS *;
ACCESS MODE IS UPDATE.
END.
```

(注) P E D名は利用者が任意に変更する。

また、APサブエントリに指定する TRANSACTION-POINT句はSYSTEMでなければならない。

付録3 . コマンドプロシジャの非互換について

付録3 . 1 V30L10からV32L20へ移行した場合

当ソフトウェアのV30L10とV32L20の提供コマンドプロシジャの非互換箇所を下表に示す . なお , 下線の引かれている箇所が変更または追加となった部分である .

付表3.1 コマンドプロシジャ非互換表

No.	行	V30L10用	V32L20用
1	1	PROC 0 PRJ(&SYSUID) MODE(1) SSP(01) PSP(01) VOL(WORK) +	PROC 0 PRJ(&SYSUID) MODE(1) <u>CNT(2)</u> SSP(01) PSP(01) VOL(WORK) + CUR(1) LAY(1) +
2	2	PED(PED001) APG(APG001) DID(DID)	UPD(UPD001) RPD(RD0001) APG(APG001) DID(DID) ↑ 更新専用PEDを指定 ↑ 読み込み専用PEDを指定
3	13後	右記内容を追加 .	SET &ANALIB=RDB.ANALIZE
4	16	SET &APELIB=SYS2.LINKLIB	左記内容を削除 .
5	18	JSM2HINA SYSDBDCT)	JSM2HINA SYSDBDCT <u>JSM2ANA</u>)
6	24	WRITE V30L10 SIMPLIA/TF-SETRDBII	ALLOC DA(*) F(SYSOUT) SHR REU LIB '&COBLIB' CALL '&LDMLIB(JSM2PRF0)' 'T2'
7	26	WRITE RDBII DISPLAY AND UPDATE SYSTEM	左記下線部分を削除 .
8	90 101	V12: /* AIMALLOC PED(&PED) } } V20: /* AIMALLOC PED(&PED) } } IF &MAXCC =0 THEN } } DO } } WRTIE } } WRTIE } } WRTIE } } WRTIE } } WRTIE } } WRTIE } } WRTIE } } JSM20060-S PED } } } } } }	IF &LAY^=2 THEN GOTO CALL ALLOC DA('&ANALIB') F(JSM2ANA) SHR REU IF &MAXCC =0 THEN + DO WRITE WRITE WRITE WRITE WRITE WRITE WRITE WRITE WRITE WRITE JSM20450-S アナライズファイルの割当てに失敗しました
9	102	CALL: LIB ('&LDMLIB' + '&COBLIB' + '&APELIB')	CALL: LIB ('&LDMLIB' + '&COBLIB') 左記下線部分を削除 .
10	105	ALLOC DA(*) F(SYSOUT) SHR REU	左記内容を削除 .
11	107	'&PRJ*&SYSUID*&MODE*&SSP*&PSP*&VOL'	'&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD*&RPD*&APG*&CUR*&DID' ↑ "*&DID" は AIM V12を使用する場合は不要 .
12	108	AIMFREE PED(&PED)	左記内容を削除 .
13	112後	右記内容を追加	JSM2ANA +
14	118	WRITE V30L10 END SIMPLIA/TF-SETRDBII	左記下線部分を削除 .

付録3.2 V30L20からV32L20へ移行した場合

当ソフトウェアのV30L20とV32L20の提供コマンドプロシジャの非互換箇所を下表に示す。なお、下線の引かれている箇所が変更または追加となった部分である。

付表3.2 コマンドプロシジャ非互換表

No.	行	V30L20用	V32L20用
1	1	PROC 0 PRJ(&SYSUID) MODE(1) CNT(<u>1</u>) SSP(01) PSP(01) VOL(WORK) +	PROC 0 PRJ(&SYSUID) MODE(1) CNT(<u>2</u>) SSP(01) PSP(01) VOL(WORK) + CUR(1) LAY(1) +
2	16後	右記内容を追加。	SET &ANALIB=RDB.ANALIZE
3	20	JSM2HINA SYSDBDCT)	JSM2HINA SYSDBDCT <u>JSM2ANA</u>)
4	26	WRITE SIMPLIA/TF-SETRDBII V30L20	ALLOC DA(*) F(SYSOUT) SHR REU LIB '&COBLIB' CALL '&LDMLIB(JSM2PRFO)' 'T2'
5	28	WRITE RDBII DISPLAY AND UPDATE SYSTEM	左記下線部分を削除。
6	91後	右記内容を追加。	IF &LAY [^] =2 THEN GOTO CALL ALLOC DA('&ANALIB') F(JSM2ANA) SHR REU IF &MAXCC=0 THEN + DO WRITE WRITE WRITE JSM20450-S アナライズファイルの WRITE 割当てに失敗しました WRITE WRITE GOTO OWARI END
7	94	ALLOC DA(*) F(SYSOUT) SHR REU	左記内容を削除。
8	97	/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD &RPD*&APG'	/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD &RPD*&APG*&CUR'
9	99	/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD &RPD*&APG*&DID'	/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD &RPD*&APG*&CUR*&DID'
10	103後	右記内容を追加	JSM2ANA +
11	109	WRITE SIMPLIA/TF-SETRDBII V30L20 END	左記下線部分を削除。

付録3.3 V31L10からV32L20へ移行した場合

当ソフトウェアのV31L10とV32L20の提供コマンドプロシジャの非互換箇所を下表に示す。なお、下線の引かれている箇所が変更または追加となった部分である。

付表3.3 コマンドプロシジャ非互換表(続く)

No.	行	V31L10用	V32L20用
1	1	PROC 0 PRJ(&SYSUID) MODE(1) CNT(2) SSP(01) PSP(01) VOL(WORK) +	PROC 0 PRJ(&SYSUID) MODE(1) CNT(2) SSP(01) PSP(01) VOL(WORK) + CUR(1) LAY(1) +
2	16後	右記内容を追加。	SET &ANALIB=RDB.ANALIZE
3	20	JSM2HINA SYSDBDCT)	JSM2HINA SYSDBDCT <u>JSM2ANA</u>)
4	30	WRITE RDBII DISPLAY AND UPDATE SYSTEM	左記下線部分を削除。

付表3.3 コマンドプロシジャ非互換表 (続き)

No.	行	V 3 1 L 1 0 用	V 3 2 L 2 0 用
5	93後	右記内容を追加 .	<pre>IF &LAY ^ =2 THEN GOTO CALL ALLOC DA (&ANALIB') F(JSM2ANA) SHR REU IF &MAXCC =0 THEN + DO WRITE WRITE WRITE JSM20450-S アナライズファイルの WRITE 割当てに失敗しました WRITE WRITE GOTO OWARI END</pre>
6	98	/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD &RPD*&APG'	/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD &RPD*&APG*&CUR'
7	100	/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD &RPD*&APG*&DID'	/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD &RPD*&APG*&CUR*&DID'
8	104後	右記内容を追加	JSM2ANA +
9	110	WRITE END SIMPLIA/TF-SETRDBII	左記下線部分を削除 .

付録3.4 V 3 2 L 1 0からV 3 2 L 2 0へ移行した場合

当ソフトウェアのV 3 2 L 1 0とV 3 2 L 2 0の提供コマンドプロシジャの非互換箇所を下表に示す . なお , 下線の引かれている箇所が変更または追加となった部分である .

付表3.4 コマンドプロシジャ非互換表

No.	行	V 3 2 L 1 0 用	V 3 2 L 2 0 用
1	1	PROC 0 PRJ(&SYSUID) MODE(1) CNT(2) SSP(0 1) PSP(01) VOL(WORK) +	PROC 0 PRJ(&SYSUID) MODE(1) CNT(2) SSP(0 1) PSP(01) VOL(WORK) + CUR(1) LAY(1) +
2	16後	右記内容を追加 .	SET &ANALIB=RDB.ANALYZE
3	20	JSM2HINA SYSDBDCT)	JSM2HINA SYSDBDCT JSM2ANA)
4	93後	右記内容を追加 .	<pre>IF &LAY ^ =2 THEN GOTO CALL ALLOC DA (&ANALIB') F(JSM2ANA) SHR REU IF &MAXCC =0 THEN + DO WRITE WRITE WRITE JSM20450-S アナライズファイルの WRITE 割当てに失敗しました WRITE WRITE GOTO OWARI END</pre>
5	98	/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD &RPD*&APG'	/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD &RPD*&APG*&CUR'
6	100	/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD &RPD*&APG*&DID'	/* '&PRJ*&MODE*&CNT*&SSP*&PSP*&VOL*&UPD &RPD*&APG*&CUR*&DID'
7	104後	右記内容を追加	JSM2ANA +

付録4 . プロフィール通知のコマンドプロシジャについて

11.1でローディングした提供JCLのうちプロフィール通知コマンドプロシジャをシステムに応じ修正する。メンバ名は 'PROFILE' である。

付図4.1 にプロフィール通知コマンドプロシジャを示す。下線部は修正箇所である。

なお、プロフィール通知の詳細については、適用マニュアルを参照されたい。 参照【1】付録F

- ① SETRDBロードモジュールライブラリ名 ② COBOL85 ライブラリ名

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
PROC 0
TIME
CONTROL NOCONLIST NOMSG NOLIST
PROFILE WTPMSG MSGID
SET  &LM=RDB.LOAD -----①
CALL '&LM(JSM2X090) '
WRITE
WRITE      S I M P L I A / プ ロ フ ィ ー ル 情 報 出 力
WRITE
ALLOC DD(SYSOUT) DS(*) REU
LIB  'SYS1.C85V12.COBLIB' -----②
CALL '&LM(JSM2PRF0) ' 'P2'
EXIT
```

付図4.1 プロフィール通知コマンドプロシジャ